

東の家

渋沢一族の先祖が血洗島の地に
住み着いたのは、戦国時代も末期
の天正年間（一五七三〜九二）の
ことと伝えられています。

栄一の生まれた家は、「中の家」と呼ばれ、本家筋とされます。この「中の家」を中心に、「前の家」「遠前の家」「遠西の家」「東の家」があり、「東の家」の分家に「古新宅の家」と「新屋敷の家」があります。

一族勃興の歴史は、新たに「東の家」を起した初代宗助に始まります。貧しさの中、苦勞する両親の姿を見て発奮し、十二歳の時に自ら進んで上州尾島宿の呉服商に奉公に出ます。二十数年をここに精勤し、やがて郷里に戻ると、初めはあめ菓子商行商などをしながら、次第に財を蓄えたといわれます。



▲児玉郡神川町に移築された「東の家」
(東の家の子孫に、有名な仏文学者「渋沢龍彦」がいる)

二代目宗助の時、家産はますます豊かとなり、領主である安部侯の家計費の一切を賄つてまでになりました。

三代目宗助は、一族の長として経営の才略に優れ、晩年は開港間もない横浜に進出。生系の海外貿易に従事しました。「養蚕手引抄」を著し流布させるなど、地域社会にも貢献しています。書・剣とも



【第2回】

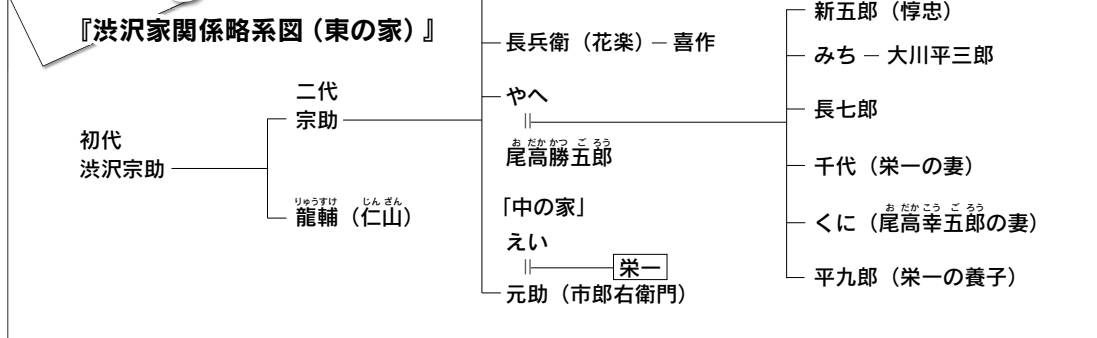
に奥義を窮め、誠室と号しました。次弟は、長兵衛のちに文平と称し、「新屋敷の家」の祖となり、やはり海外貿易に従事。書・俳諧に巧みであり、花楽と号しました。その次男が喜作です。三弟元助は、「中の家」に婿入りし、市郎右衛門を襲名。栄一の父となりました。

元助の姉やへは、下手計村の尾高家に嫁ぎ、新五郎（惇忠）・みち（大川平三郎の母）・長七郎（千代（栄一の妻）・平九郎（栄一の養子）の養子）の母となりました。

「東の家」初代宗助の少年の日の思いが、一族の新しい歴史を切り開き、栄一という偉大な人物を生み出すことにもつながるのです。

(文：新井慎二)

物語の手引き



※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

キラリ熱・中・時・間

～埼玉工業大学フォーミュラプロジェクト～



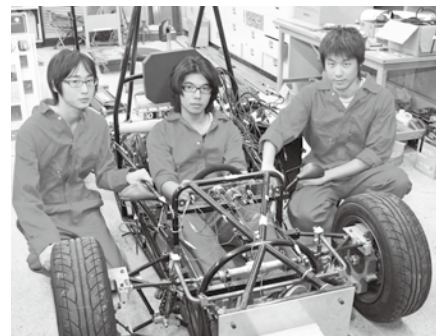
川田直也リーダー

埼工大生、ものづくりで挑む

9月5日(月)から5日間、静岡県で開催される「第9回全日本学生フォーミュラ大会」。その出場を目指し、埼玉工業大学フォーミュラプロジェクト(以下「SITFP」)の活動は山場を迎えています。「全日本学生フォーミュラ大会」は、自動車産業をはじめ、日本のもので作り出す若者を育成することを目的として開催されているもので、今大会では、国内外の大学などから87チームが集結。書類審査を通過した67チームが、5日からの本戦に挑みます。

SITFPの発足は07年。学生が主体となり、1つのレーシングカーのコンセプトから設計、「コスト管理、車体の製作まで、車両1台をゼロの状態から築き上げてきました。

08年の第6回大会に初参戦し、今年で4大会目。昨年は、書類審査で敗退し、悔しい思いをしましたが、その分、今回のマシン製作には力が入ります。「提出書類は



▲メンバー13人で手掛けたSIT-F02
コンセプトは「車両重量200kg」

万全。手応えもある」と、8月5日(金)に発表される書類審査の結果に、メンバーの期待が募ります。本戦では、マシンの走りだけでなく、設計からプレゼンテーションに至るまで、幾つもの審査を乗り切らなければなりません。まずは、5日間脱落せずに闘い抜くと。それが今の目標だそうです。

今大会が最後となる川田リーダーは「成績を残して、下の代につなげたい。プロジェクトを続けて、今をはるかにしのぐマシンを作り上げてほしい」と語ってくれました。

ありがとうの手紙



優秀賞
小学校高学年の部
横山ゆう人君へ

常盤小学校4年(現5年) 村田 悠河さん

今ぼくがゆう人君に一番伝えたい言葉は、ありがとうです。

なぜなら、ゆう人君は草むらに入って、バッタやキリギリス、シジミチョウやトンボを見つけたり、時にはつかまえてくれるからです。トンボの種類や、オスとメスを見分けて教えてくれます。

トンボはとんでいるのにもかかわらず、種類やオスとメスを見分けるのは、すごい事だと思います。ぼくも虫の事をいっぱい勉強して、いつかゆう人君のようになれるといいなと思います。

夫婦道のススメ

感謝と恩返しを忘れない



持田 勉さん(81歳)
喜代子さん(79歳)

原郷にお住まいの持田さんご夫妻は、結婚53年目。両親を早くに亡くし、苦勞された勉さんの元に嫁いだ喜代子さん。結婚当時は保育園もなく、近所のおばあちゃんのお世話になり、無事に共働きができたそうです。今の自分たちがあるのも、周囲の支えがあったから。その感謝の気持ちを地域に恩返しするため、深谷の歴史研究などに貢献されています。

夫婦円満の秘訣は、「助け合うこと」と「感謝の気持ちを忘れないこと」だそうです。